

■ concept

昨今、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策の影響によりオンライン化が進んだことで、外出せずとも生活に支障がない、便利な世の中へと変化しつつある。しかしながら、我々の本来の生活様式は、**人と自然に触れ、時間や空間を共有すること**であり、これらは決して**画面上では体験すること**はできない。したがって、**人と直接会う喜び、新鮮な空気や日光の暖かさ、四季の移り変わりを直に感じてこそ、我々は真の「幸せ」を感じることができる**のではないだろうか。

本提案では、新型コロナウイルス感染症対策を考慮した抗菌・蓄光ガラスを布のように編み、柔らかなガラス面を用いることで、自由な空間造りを可能にし、**外部での自己の居場所**を計画した。人と自然を感じつつ、人との距離を確保できる空間を生み出すことで、**公園における新たな価値**を創造する。



ガラス越しでも人の存在や温もり、柔らかさを感じる

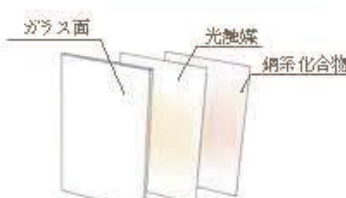
■ material

〔抗菌ウイルスクリーン〕

新型コロナウイルスの物質別最大残存期間



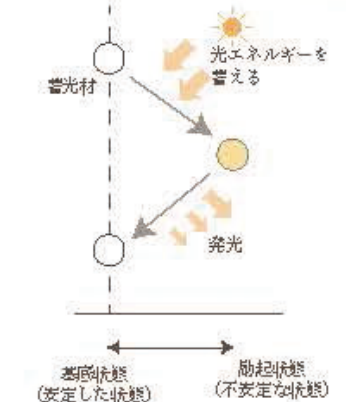
銅は強い殺菌・消毒作用を持つ金属であり、新型コロナウイルスに対しても有効である。銅のこの効果を生かして、ガラス面に光触媒と銅系化合物をコーティングすることで、光が照射される限り銅の効果を持続させ、ガラス面に付着した99%以上のウイルスを低減することができる。



ウイルスクリーンの構造

+

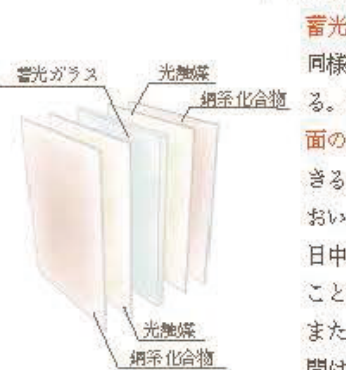
〔蓄光ガラス〕



紫外線を含む光を受けると、その一部のエネルギーがガラス中に蓄えられ、波長「励起状態」となり、余分なエネルギーである光を放出することで、元の「基底状態」に戻る。これにより、ガラス面は発光が可能であり、光を受けなくても長い時間発光し続けることができる。したがって、電気の要らない**夜間照明が可能**になる。

||

〔本提案のガラス〕



蓄光ガラスの両面をウイルスクリーン構造と同様に光触媒と銅系化合物をコーティングする。両面にコーティングすることで、ガラス面の内と外どちらも面を死滅させることができる。加えて、蓄光ガラスによって、夜間においても光を受け続けるガラス面は、日中だけでなく、**24時間抗菌が可能**になることから、**時間を問わず人々の居場所**となる。また、夜間も周囲を柔らかく照らすガラス空間は、街灯のように防犯の効果も持つ。

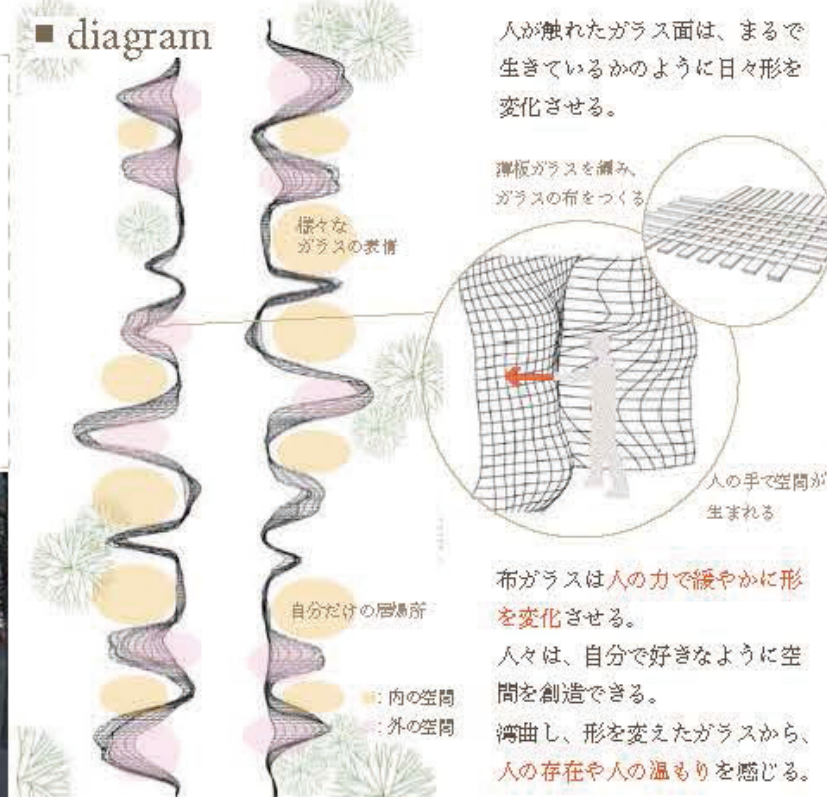


夜間は街灯のように付近を照らす



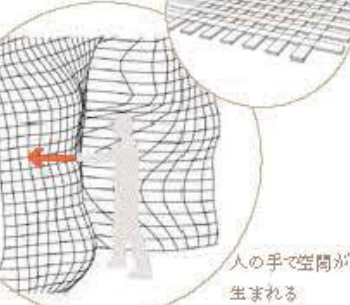
それでも私は感じたい

■ diagram



人が触れたガラス面は、まるで生きているかのように日々形を変化させる。

薄板ガラスを積み、ガラスの布をつくる



布ガラスは人の力で緩やかに形を変化させる。

人々は、自分で好きなように空間を創造できる。

湾曲し、形を変えたガラスから、人の存在や人の温もりを感じる。



ガラスにより柔らかな境界と空間が生まれる



人の気配を感じつつ距離を保つ